

完成したタイル床の上で喜びを分かち合った



帯広稲田小から感謝状 平田建設 遊具塗替など

【帯広発】(株)平田建設(土幌、長谷川雅毅社長)と帯広工業高校の生徒は11日、帯広市立稲田小学校から感謝状を受け取った。高校生が同社の協力のもと実施した稲田小のブロック床整備

と、合わせて平田建設が地域貢献活動として行った遊具の塗り替えに対するもの。野中利晃校長が長谷川社長と生徒に感謝状を手渡し、教育環境の向上の功績をたたえた。

帯工高環境土木科の3年生は「外部との連携による探求学習」に取り組み、同社は生徒による稲田小の屋外トイレ前のブロック床改修などに協力。ブロック床改修では、高校生11人が同社からの助言や道具の貸し出しを受けながら施工計画を立案、施工した。

また、学習に協力するという形で稲田小から現場の提供を受けた同社は7月、塗装の剥離やさびが目立つた遊具の塗り替えを実施。景観向上と児童の安全確保に貢献した。

献した同社に対し稲田小が「感謝の会」を開催。同社から長谷川社長と棟方聡常務執行役員、高校から施工した生徒のうち10人が小学校を訪れた。

野中校長は、高校生に対して「こんなには素晴らしいものが完成してうれしい。良い課題研究になったので」と称賛。同社に対しては「遊具がきれいな色になって、子どもたちが放課後や休み時間にうれしそうに遊んでいる姿を見て感動している」とし、帯工高の田中暖人さんと長谷川社長に感謝状を手渡した。

に遊んでいる」「タイルが平らになって転ぶことなく使えるようになった」と謝意を伝えた。

田中さんは「前より安全に使えるようになったのでたくさん使ってほしい」と期待し、同社に対して「皆さんがいなければこれまでの完成度にならなかった」とした。

長谷川社長は「こういう形で感謝状をいただき感動している。高校生の皆さんには一致団結して協力しながら作業したことを良い経験としてほしい」とした上で、児童に対して「今回のように感謝すること、そして感謝されることを忘れないで」と呼びかけた。